

子どもの野菜嫌い 楽しく改善

川崎医療福祉大（倉敷市松島）医療福祉デザイン学科の4年生（15人）が研究成果としてまとめた卒業制作で、子どもの野菜嫌い改善グッズを考えた岡田愛海さん（22）が最優秀賞に選ばれた。

岡田さんの作品「やさいく」は食器と絵本、工作キットのセット。食器は、おわんに米やパンのイラスト、3分割したプレートの縁にはニンジンや大根などの野菜、肉や魚の絵をプリントしており、絵に合わせて盛り付ければバランスの取れた食事になる仕組み。絵本は栄養の大切さを知らせる内容で、工作キットは野菜の断面をスタンプにして遊べる。

岡田さんは「4年間の学びを形にできて満足。デザインは使う人のためのものなので、子どもが楽しみながら学べるよう工夫した」と話す。

優秀賞には、若者の劣等感克服に向け学生29人のポートレートを撮影して

川崎医福大卒業制作のグッズ
岡田さん最優秀



写真集にした河本花波さん（22）と、糖尿病や産後うつ症状を漫画で描いた椋木太一さん（22）が選ばれた。

卒業生の作品は倉敷市立美術館（同市中央）で展示する予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止になり、同大ホームページから入れる特設サイトで公開している。（吉川瑠美）

子どもの野菜嫌い改善グッズ
を考案した岡田さん